鳴山城の歴史

○正安元年（一二九九）十二月六日、鎌倉府が陸奥長江庄以下の地を長沼宗秀に安堵する『園城寺文書』
○正和元年（一三一二）四月十四日、長沼宗秀が長江庄内奈良原郷の地頭職を又五郎宗実に譲る『長沼文書』
○元徳三年（一三三一）九月十五日、長沼宗実が奈良原郷の地頭職の譲り状を書く『長沼文書』
○建武元年（一三三四）六月十三日、後醍醐天皇が長江庄奈良原（楢原）郷を長沼宗実に安堵する『伊達文書』
○同年八月二八日、には湯原（湯ノ上）郷を長沼秀行に安堵する『長沼文書』
○建武二年（一三三五）長沼安芸五郎朝実が成田五郎左衛門朝直に到着状を出す『長沼文書』
○観応二年（一三五一）七月二三日、長沼高秀が南山の所領について結城朝常に尽力を依頼する『結城文書』
○文和二年（一三五三）六月、田島村鷲山の城を秋山城に改める『異本塔寺長帳』
○同年六月二五日、吉良貞家が南山にある長沼朝実の本知行分を安堵するよう幕府に推薦する『長沼文書』
延文四年（一三五九）十一月二日、長沼秀直が奈良原安芸五郎に去り状を出す『長沼文書』
○永和二年（一三七六）五月二六日、長沼朝直が舎弟朝秀を養子とし、南山の内奈良原郷以下の地を譲る『長沼文書』
○応永六年（一三九九）十一月九日、長沼義秀に、下野内の長沼又四郎跡の所領を長沼淡路義秀の代官に渡すよう足利満兼（稲村御所）が命ずる『皆川文書』
○応永十五年（一四〇八）九月十一日、長沼義秀が奥州奉行武田八郎若狭が、断絶したことを奉行へ訴える『皆川文書』
○応永二十年（一四一三）六月二五日、長沼義秀が南山八郷以下の所領を孫の亀若丸に譲る『皆川文書

○応永二十五年（一四一八）七月二一日、足利持氏は長沼義秀の陸奥国南山庄以下の諸公事を免除する『皆川文書』
○応永三十年（一四一六）鎌倉公方の足利持氏は、下野国三依の地を長沼義秀に渡すよう宇都宮弾少（君島信濃守）へ命じるが翌年も渡さなかった『皆川文書』
○応享四年（一四三二）下塩江の鷲神社鰐口銘に「奥州長江庄田島郷」とある
○永享十一年（一四三九）関東管領上杉憲実より、早く三依の地を渡すよう雑賀遠江守に出される『皆川文書』
○享徳二年（一四五三）三月十六日、葦名盛詮の家臣松本筑前ら本右馬允と芳賀将監を討ち、右馬允は日光に逃れ、芳賀将監は田島城主の長沼政義に討たる『異本塔寺長帳』
○長録三年（一四五九）山内越中、白川の兵五百余が南山しき山城へ押し寄せ白川勢が城に籠り、葦名氏は長沼に加勢。白川勢三七人討死『塔寺長帳』南山勢四三人討死『異本』
○永正十八年（一五二一）四月南山の勢、火玉に入り火付する。皆討死し一騎も帰らず四月二十六日葦名盛瞬南山に出る『塔寺長帳』
○永禄十二年（一五六九）長沼実国が後妻の大津梅雪女と次男の国清を連れ隠居し、三依に姥捨山城を築く『藤原町史』
○天正十七年（一五八九）六月五日、伊達政宗、葦名氏を摺上原で破り、十一日には黒川城に入る。六月十二日、長沼盛秀、黒川城に登城し、政宗に忠誠を誓う『伊達治家記録』
○天正十八年（一五九〇）三月十六日、大豆渡邑で、長沼盛秀は伊南の河原田盛次を攻め合戦し討死。伊達政宗は、水口外記を田島城代、古町（久川）には伊東美作を城代とし、横田には置かず『異本塔寺長帳』
○八月九日、豊臣秀吉が黒川(若松)に入り、奥羽仕置をし、長沼氏は政宗に従い会津を去る。八月十四日、豊臣秀吉が田島を出て、高原通に帰洛『会津旧事雑考』上三依から九十九折の尾頭峠を越え、塩原の元湯に入り「太閤おろしの滝」に出て日光に向う『元湯古絵図』

○同年、豊臣秀吉の命により、蒲生氏郷が会津に入り、鳴山城には六千三百石で小倉佐左衛門が入る。『蒲生分限帳』
○文禄四年（一五九五）五月二九日、若松以下七城を除き、秀吉は浅野長政親子に命じ、大田原備前へ破城するよう命じ、鳴山城も破城される『富岡文書』
○慶長三年（一五九八）正月十日、豊臣秀吉の命により、上杉景勝が会津に移封。鳴山城には二万二千石で直江兼続の弟、大国実頼が入り城を改修する『上杉家分限帳』
○慶長五年（一六〇〇）七月二十二日、直江兼続が、弟の大国実頼に鶴ケ渕の防墨普請を鹿沼右衛門に命じる。松本を越後口へ佐藤甚介は桧枝岐に派遣。湯本（那須塩原温泉）、高原には栗林肥前を派遣する。『覚上公御書』『上杉家記』
○この年、津川城に小国但馬、田島駅に栗林肥前を置く『異本塔寺長帳』
慶長六年（一六〇一）景勝が米沢に移封となり、会津には再び蒲生秀行が那須塩原から田島を通り若松に入る。鳴山城には再び小倉作左衛門が入る。忠郷時代は五千石であった。『蒲生分限帳』
○慶長十六年（一六一一）八月二十一日、会津大地震『会津旧事雑考』
○慶長十八年（一六一三）五月、愛宕神社に鳴山城代の蒲生主計助が鰐口を奉納する
○慶長十九年（一六一四）越後高田城築城にあたり、南山田嶋城代の蒲生主計がある『異本塔寺長帳』
○同年、九月二六日、蒲生主計が自殺、鳴山城代は蒲生内記がなる『会津旧事雑考』
○寛永四年（一六二七）蒲生氏に代わり加藤嘉明が会津に入り、鳴山城は廃城となる。南之山代官に杉本仁右衛門、南山田嶋代官に六百石鈴木半兵となる『加藤家分限帳』

文責　石田明夫

2010.10.09　鳴山城跡　会南会津町田島　鳴山城まつり実行委員会・会津古城研究会